

---

# アニラジ放送局～今宵も暴走中～

東条 優

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

アニラジ放送局〜今宵も暴走中〜

### 【Nコード】

N2867T

### 【作者名】

東条 優

### 【あらすじ】

あらゆるアニメキャラをゲストに呼んでもしるトークを繰り広げるラジオ風小説です。

## 始めに

祝、メインパーソナリティが決定しました。

あらゆる日常をミッションに変える男、棗恭介。

俺はハーレムを作る、杉崎健。

が、上位2名でしたが、華がないということで、新たに2名の女性パーソナリティを用意しました。

天使ちゃん、マジ天使!!、立華奏。

失礼、噛みました・・・噛みまみた、八九寺まよい。

というわけで、男性キャラ1名、女性キャラ1名を交互に出していききたいと思います。

もちろん毎回ゲストさん呼びますよ。

というわけで、記念すべき第1回目のゲストは、生徒会の一存より桜野くりむです。  
皆さんお楽しみに。

そして、皆様にはこの小説を盛り上げていただくために少し協力してもらいます。

ゲスト募集中。

ゲストを募集しています。キャラクター名を書いて送ってください。下記に書いてある作品は作者が知っているのですからお願いします。また、下記に書かれていない作品で、これはどうですかというものも、気軽に聞いてください。ここは日々更新していくのでチ

エックしていつてください。

Angel Beats!、CLANNAD、リトルバスターズ、恋姫無双、バカとテストと召喚獣、生徒会の一存、咲-sakiki-、onepeace、銀魂、ひぐらしのなく頃に、うみねこのなく頃に、とある魔術の禁書目録、とある科学の超電磁砲、化物語、ハヤテのごとく、神のみぞ知る世界、けいおん!、花咲くいろは

お便り募集中。

皆さんからのお便りを募集しています。内容、ペンネームを書いて、メッセージを送ってください。

基本的にお便りが来ない場合は作者が考えますが、来たお便りは優先して読まれます。

・ふつおたのコーナー

皆さんが体験した何気ないことを大募集。というよりも何でもいいです。どれに出したらいいかわからないお便りもここに送ってね。

・棗恭介のミッションスタートだ!!

皆さんがやっているミッションや、棗恭介たちにやってもらいたいミッションを大募集。実際にパーソナリティがやることも・・・。

・杉崎健の恋のお悩み相談

自称ハーレムの王、杉崎健が皆様の恋のお悩みを解決します。なんだったら、自慢話でもいいので送ってね。

・天使ちゃんの成仏しちゃうぞ

このコーナーでは、皆さんのこれをしたら、されたら成仏しちゃう出来事の大募集。さらには天使ちゃんへのラブコールを送ってもいいですよ。

・八九寺Pの迷いトーク

リスナーから頂いた、懺悔や怪談、まあ、ありとあらゆるトークをひっちゃかめっちゃかにするコーナーです。困ったら八九寺Pの圧力でリセット!!

ラジオのコーナーを募集中。

こんなコーナーはどうでしょうというものを、この小説の感想、もしくはメッセーজボックスに書いて送ってください。

## 第一回放送<前編> ゲストは桜野くりむ

杉崎健「アニラジ放送局!!!」

八九寺真宵「今宵も暴走中!!!」

BGM)Treasure)

杉崎「皆さん、初めまして。ハーレムの主、杉崎健です。」

八九寺「皆さん、初めまして!!!地縛霊から浮遊霊に昇進した八九寺真宵です。」

杉崎「生徒会の一存opから始まったこの放送。しかし、この歌は何度聞いても良いなあ。」

八九寺「確かにいい歌ですね。」

杉崎「俺のハーレムが歌ってますから。」

八九寺「ハーレム?杉崎さんはハーレムを持っていらっしやるのですか?」

杉崎「おっ、真宵ちゃん興味あるのかい?」

八九寺「興味はあります。それと気安く下の名前で呼ばないください。何か勘違いされているようですが、私は杉崎さんより『年上』です。」

杉崎「またまた冗談を。真宵ちゃん。」

八九寺「下の名前で呼ばないでください。何度言えば分るのですか。私、杉崎さんのこと、嫌いです。」

杉崎「ぐふっ……。こうもストレートに言われると流石の俺でも傷つく……。」

八九寺「一人で傷ついていてください。杉崎さん。それよりも早くハーレムの話を聞かせてください。」

杉崎「ああ……。どうして俺は幼女に見下されているんだ……。」

八九寺「幼女ではありません。私は見た目は子供でも杉崎さんより年上です。幽霊だから成長しないだけです。私が成長したらきつとナイスバディに違いありません。」

杉崎「ああ、そうなんだ。」

八九寺「何でそんなかわいそうなものを見る目で私を見るのですか！？」

杉崎「いや、幽霊って……。そんな真面目に言われても……。っと話を変えて俺のハーレムについてですね。」

八九寺「えっ、そろそろゲストさんを……。はい、分かりました。」

杉崎「俺のハーレムは美少女オンリーでして、って聞いてない!？」

八九寺「杉崎さん。一人で何言ってるんですか。ゲストさんをお呼

びしますよ。」

杉崎「……一回目なのに俺の扱い酷すぎないッ!？」

八九寺「記念すべき第一回目のゲストさんの登場です。」

杉崎「スルー!？」

???「人気者はやっぱり一番なのよ!！」

杉崎「やっぱり名言で始まるんですね……。」

???「何よ杉崎!!文句ばっか言わないで。っと、こんばんはー。」

八九寺「こんばんはー。」

杉崎「やっぱり、その挨拶知らないの俺だけか!？」

桜野「碧陽学園生徒会長の桜野くりむだよー。みんな、よろしくね。」

八九寺「ぱちぱちぱち。」

杉崎「ところで会長、さっきの迷言は？」

桜野「杉崎、私は迷ってなんかいないよ。ラジオだからって分からないと思ったら大間違いだよ。」

杉崎「失礼しました。では改めて、さっきの名言は？」

桜野「生徒会選挙でも私は一番票が多かったから生徒会長になったわけじゃない。」

八九寺「桜野さんの学校は確か人気投票でしたよね。」

桜野「そう。つまりは私はみんなの人気者ってことだよ。それにこのラジオで初めてのゲストってことはやっぱり人気があるってことなのよ！」

杉崎「本当に人気があったらメインパーソナリティに選ばれるんじゃないか……。」

桜野「杉崎、うるさいよ。」

杉崎「そうやって耳を塞いで、現実から逃げては駄目ですよ。会長。」

桜野「し、仕方ないじゃない。八九寺ちゃんとなんか票が割れてたみたいだし。」

八九寺「まあ、キャラが被っていますしね。」

桜野「そうそう。」

杉崎「あ、会長。幼いってこと認めちゃいましたね。」

桜野「……あっ。ち、違うもん。幼くなんかはないよ。私は大人の女だよ。」

杉崎「へえ、どの辺が大人何ですか？」

桜野「む、胸が大きいんだよ。」

杉崎「はい、嘘ですね。」

桜野「。。。ぬ、脱ぐとすごいんだよ。」

杉崎「。。。。」

八九寺「。。。。」

杉崎「。。。。。。」

桜野「私が悪かったよ。。。だからその放置はやめて。」

杉崎「それで、何が大人なんです？」

桜野「お正月には夜更かしして、年越したんだよ。」

杉崎「親戚の子供にいそうですね。」

桜野「この間なんて、嫌いなピーマン頑張って食べたよ。」

杉崎「完璧に幼稚園児レベルだ。」

八九寺「杉崎さん、杉崎さん。」

杉崎「どうしたの。はっちー。」

八九寺「何なんですか。それは!!」

杉崎「下の名前で呼ばれるのが嫌だったみたいだからニックネームを考えてみました。」

八九寺「嫌です。某海賊漫画に出てくるタコ人間の愛称みたいじゃないですか!!」

杉崎「それじゃあ、はちえもん。」

八九寺「私はドラ もんじゃないですっ!!」

杉崎「これならどうだ。マヨちゃん!」

八九寺「ちん、って辺りに嫌らしさを感じます。」

桜野「もしもし、警察ですか。」

杉崎「待つてください!!会長、軽いジョークじゃないですか!!」

八九寺「私、杉崎さんに嫌らしい妄想されました。」

桜野「・・・ロリコン。」

杉崎「ぐふっ、俺、何も・・・悪くないのに。」

八九寺「杉崎さんが、部屋の隅で体操座りになってます!」

桜野「いいの。いいの。いつものことだから。それより、八九寺ちゃん、杉崎に何言おうとしてたの?」

八九寺「胸の話に戻るんですけどね。私、小学生の割には発育が良  
い方なんです。その、胸とか。大人ってことをアピールしようと  
」。

桜野「じっ！」

八九寺「桜野さんどうしたんです？私の胸と御自身の胸を交互に見  
始めて．．．ってどうして泣き始めるんですか！？」

桜野「うえーん。」

八九寺「杉崎さん、何とかしてください。」

杉崎「どうせ．．．俺なんて．．．。」

八九寺「どうしたら．．．、えっ、早くふつおたのコーナーに行け  
はい、分かりました。」

八九寺「そんなわけで始まりました。この番組。最後までお付き合  
いください。リシュナーのみなさん．．．失礼、噛みました。」

八九寺「ふつおたのコーナーです。このコーナーでは皆さんの何気ない出来事について話していくコーナーです。」

杉崎「はっちーは最近何かしたんです?」

八九寺「立ち直りが早いですね。杉崎さん。」

杉崎「当たり前ですよ。美少女の前で俺がめそめそしているわけにはいきませんから。」

桜野「ぐすつ．．．私も．．．大丈夫。」

八九寺「そ、そうですね。では、私の話を。私が道を歩いていたら、後ろからいきなり胸を揉まれました。」

杉崎「俺にも揉ませてくだ．．．ぐはっ!」

桜野「杉崎い!」

杉崎「す、すみません。」

桜野「まったく杉崎もだけど八九寺ちゃんもそんな話するからだよっ! 冗談でも杉崎のエッチいセンサーが反応しちゃうじゃない。」

八九寺「冗談者じゃないですよ。私歩いているとよく胸とかお尻とか揉まれます。男の人に。」

杉崎「うらやま．．．じゃなくて、許せん。」

八九寺「しかも同じ男の人です。その人は自覚がないうちにハーレムを作り出して私もその一人に組み込まれてるらしいです。」

杉崎「俺よりもランク上じゃね。師匠と呼びたい。」

八九寺「しかも、その方は現在、実の妹を2人も同時攻略中です！」

桜野「杉崎より凄いやー！」

八九寺「まあ、私の話はこのくらいにして、早速お便りいっちゃいましょう。」

杉崎「じゃあ、読みますね。ペンネーム、ロリ神さんから頂きました。」

杉崎「パーソナリティの杉崎さん、八九寺ちゃん、そして、ゲストの会長さん、こんばつぱー！？」

杉崎以外「こんばつぱー！？」

杉崎「僕はこの春から高校生になったのですが、周りが知らない人ばかりで、なかなか友達が出来ません。友達を作るためにどうすればいいと思いますか？」

八九寺「いきなり深刻なお悩みの方ですね。」

杉崎「ギャルゲ、エロゲから始まる友達も・・・。」

桜野「そんなの嫌だよっ！！」

杉崎「じゃあ、会長はどういうことをするんです?」

桜野「話しかければいいと思うよ。」

杉崎「単純ツ! !会長、多分この方は、話しかけるにしてもどんな話題からとかそういうことを聞いているのかと。」

桜野「プ キュアとかすればいいと思うよ。」

杉崎「いやいやいや、高校生ですよ。あれは小さな女の子向けの番組でしょ。」

桜野「ええー、プ キュア面白いよ。私、日曜日の朝は必ず見てるもん。」

杉崎「あー、何か分かります。会長、テレビに向かって叫んでそうです。」

桜野「変身した後は、『爪弾くは荒ぶる調べ! キュアメロディ!』って言ってるよ。」

八九寺「杉崎さん、ここは私に任せてください。」

杉崎「おっ、はっちー。じゃあ、どうぞー!」

八九寺「化物語。」

杉崎「自分とこアピールキターーーーーー!!!!!!」

八九寺「これは我ながらいいと思うのです。読む対象者も中高生向けですし、何より、ちょいエロです。こういうのは高校生大好きなはずですよ。」

杉崎「まあ、嫌いな人はいないでしょうけど……。」

八九寺「それに、ツンデレ、ロリ、百合ツ娘、年下に、眼鏡委員長、妹に、ロリなのに中身はババアとあらゆる属性が詰め込まれていきますよ。」

杉崎「本格的に宣伝に入っていない!?!」

八九寺「とにかく化物語、これから友達を作るべきです。これが売れたら、私の出番が増えること間違いなしで……うふふ。」

杉崎「結局自分のためかあ!?!」

桜野「えーとねー、生徒会の一存もよろしくね。」

杉崎「会長、完全に忘れてましたよね。」

桜野「う、うるさいよ。杉崎。それよりも次のお便り。」

杉崎「はい、というわけでロリ神さんはアニメとかの話から友達を作ってください。」

八九寺「続いているお便りは、ペンネーム、杉崎さんは誰の嫁?さんから頂きました。」

杉崎「ここに真冬ちゃんがいたら中目黒とかいうんだろっな……」

はあ．．。」

八九寺「ラジオが始まったばかりなので僕は御二方のことがあまり知りません。動物で例えるならどんな感じですか？」

杉崎「なんで動物なのかは分からないが、はっちーはどんなんだと思っ？」

八九寺「蝸牛。詳しくは小説、化物語（上）をご覧ください。」

杉崎「さりげなく宣伝入れてくるね。で、会長は．．。」

桜野「私はライオンだね。だって一番だもん。王だもん。」

杉崎「会長はどちらかというとハムスターでは？」

桜野「小さいって言いたいの！？もういいよ、そういう杉崎はミジンコだから。」

杉崎「ミジンコってあんまりだー！！俺にも人権が．．。」

桜野「えっ？杉崎って人だったの？」

杉崎「何その、意外です、みたいな反応。本気でへこむんですけど。」

八九寺「杉崎さん、杉崎さん。」

杉崎「はっちー。慰めてくれるの．．。」

八九寺「私、杉崎さんのことがそこはかたなく嫌いです。」

杉崎「う、うわ~~~~~ん。」

八九寺「と、杉崎さんが泣いちゃったところで、ふつおたのコーナーは終了です。皆様からのお便り待ってます。」

<第一回放送前半終了>

第一回放送<前編> ゲストは桜野くりむ(後書き)

いかがでしたか？  
次回もお楽しみに。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2867t/>

---

アニラジ放送局～今宵も暴走中～

2011年10月7日09時10分発行